

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600215
法人名	三井福祉会
事業所名	グループホーム 大城の里 (ユニット名 ひまわり)
所在地	福岡県久留米市北野町乙丸3-13
自己評価作成日	令和3年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和3年6月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

耳納連山と筑後川、田圃と畑の中に在り、四季折々の花々や自然に触れ合える環境の中、すぐ近くには西鉄電車甘木線大城駅があり交通機関にも恵まれています。「地域の中でその人らしく笑顔と笑い声のあふれる暖かい暮らし」を理念に掲げ、職員一同がご利用者お一人お一人が日々穏やかに安心して生活して頂ける様努めています。又、ご家族にも安心して頂ける様に、日常の状況や変化を細目にお伝え致しています。重度化や看取りについても入居時に説明を行い、現在の状況と要望を鑑み、主治医との連携を図りながらケアを行っています。様々な地域交流も行いながら、ご利用者が安心して暮らして頂ける様努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中でその人らしく笑顔と笑い声のあふれる暖かい暮らし」を理念に、行事や活動へ参加し、地域の方々との関わりを大切にしており又、ご利用者が笑顔で暮らして頂ける様に職員全員で取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し清掃や行事へ参加し、地域の小学校や保育園との交流会を行う等、地域の一員として交流を続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に民生委員さんや地域包括の職員の方、ご家族等にご参加頂き、施設行事を地域の方々に紹介してもらい、参加を得られるように努めている。また、小学校での認知症サポーター講座等に参加し地域の中の施設をアピールしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している市役所、地域包括、民生委員、ご家族そしてご利用者に参加して頂いている。それぞれのテーマに沿って意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、施設の実情、ご利用者様に対するサービスの取組みについての状況の説明を行っている。また、その都度連絡や相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の意思を尊重し、出来るだけ自由に生活して頂ける様支援している。ケア会議でも毎回、身体拘束をしない事を確認し、事例の検討等を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については法人内外の研修にも参加し、職員会議でも話し合っている。又、委員会を作り、定期的に法人や事業所でアンケートを行い、職員には虐待が無い様、又見過ごされる事の無い様、周知徹底している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、勉強会や研修等を通して、権利擁護に関する制度について理解を深めるよう努めている。玄関にパンフレットを置いたり、入居時や家族会等、必要に応じて個々に説明を行い、制度の活用を出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明し、了承を得た上で契約をいっている。又、制度改定等がある場合は御家族やご利用者に不安がないよう、十分な説明を行い、ご理解頂けるように努めており、その都度同意書を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から御家族には、ご利用者の状況報告を行い、ご意見や要望等伺って、生活に反映出来る様にしている。ご利用者との会話やコミュニケーションの中から思いを汲みとれるよう努めている。又、家族会を開催し、自由に意見交換ができる機会を設けている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやケア会議の際は、職員の意見や提案を聞き、議論できる機会を設けている。その内容を、運営会議や業務改善会議や法人事務局に報告や提案し、職員の意見を反映出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績等については年に2回、面接と自己評価を行い、その上で職員の日々を見ながら評価を行っている。又、資格取得の為、職免で研修に参加できる体勢を整えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、子育て支援や勤務時間の調整も行っている。年齢や性別によって採用対象から排除することは無い。また職員についても能力が発揮できる様職場内の環境整備にも努めている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会や研修会等に参加し、ご利用者、一人ひとりの人権を尊重し、自己決定できる施設である様に職員も学びに努めている。又、理念にもしている「その方らしく」を基本にご利用者の思いを大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	法人内での全体研修、GH全体での勉強会、委員 会活動を行い、職員の質の向上に努めている。 外部研修は職員の経験等を考慮し、参加できる 様努めているがコロナの問題で外部の勉強会へ の出席に支障がある為、web学習や書面での学 習にも力を入れている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	法人の委員会や合同勉強会等に各事業所 より参加し、情報交換や交流をおこない、 サービスの質のサービスの向上に繋げる取 り組みをしている。グループホーム部会や 外部研修にも参加し、ネットワークづくりに 努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族の要望や不安な 事をお聞きして、情報を職員が把握すること で、出来るだけ早く安心して生活が送れる 様に努めている。不安で落ち着かない時 は、ご本人に寄り添いお話を傾聴している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	事前面接等で現在の状況や要望、不安な 事を十分に聞き取り、入居後は出来るだけ お話を傾聴し、ご様子をご家族にこまめに 連絡する事で、新しいご利用者様とご家族 との関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入居初期においては、ご本人やご家族に必 要としている支援を見極め、提供出来る様 に努力している。又、より良いサービスが選 択できるよう他のサービスの紹介や利用の 対応にも努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が、日常生活を共にしている事を認識し て頂けるよう、家事活動やレクリエーションを一緒 に行いコミュニケーションを多くとるように努めて いる。ご本人の希望に沿った学習や運動や趣味 等を共に行き、寄り添った関係を築ける様にし ている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時には家族との時間を大切にす為、居室でゆっ くり会話を楽しんで頂く。御利用者の日常の様子等はそ の都度報告し、詳細については2ヶ月毎に状況報告を 送付し、御家族と共に支える関係を築いている。現在は コロナ過にあり、シート越しや窓越しの面会やWebでの 面会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご家族、親戚等に施設へ面会に来て頂いたり、電話を掛けて頂く等関係が途切れないように心がけている。又、家族と連携し外出や帰省を支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置は入居者様同士でコミュニケーションがとれる様、考慮している。家事活動やレクリエーションではご利用者様同士が自然に関わり合える様、支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は面会を行い、経過をご家族に尋ね、状況を確認し今後の相談や支援が出来るよう努めている。又、退所された方のご家族が来訪された際は、お話を伺い関係性を大切にした支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご本人の思いや意向を汲み取り、月一度の常会でも一人ひとりの希望を確認している。意見の伝達が難しい利用者様ご家族へ尋ねたり、日々の生活の中で感じた事を元に検討を行っている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人・ご家族から生活歴を確認し、これまでの暮らしの情報の把握に努めている。又、新しく得た情報は、職員間で共有し、より良い支援が出来る様努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時に記録を確認し、職員間での情報の共有を図り、毎日のバイタル測定で体調の把握に努めている。また、ケア会議時にも一人ひとりのご利用者について何か変わった事や必要な事などをスタッフ全員で意見を出し合っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやケア会議にてスタッフ全員でケアプランの情報の共有を図り、評価や今後の方向性等を検討し、現状に即した支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃から取り組んでいるリハビリ、家事活動、余暇等をケアチェック表やケース記録に記入し、問題点等を会議や申し送りで情報共有し、円滑なケアに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われず、あらゆるニーズに応じた柔軟なサービスが出来るよう、ご家族が何時でも泊まれるようにしている。又、面会時も時間を問わず、対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の季節行事や自治区の神社の祭事やお宮掃除等に積極的に参加し、交流を深め、日々、安全で豊かな生活ができるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族のご希望によるかかりつけ医との連携を密に保ち、毎日のバイタル測定や受診ノート等の情報を他職種間で共有し、適切な受診が出来る様に支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタル測定や気づき等を共有し、異常時は、昼夜を問わず連絡がとれるようにし、又、日常的に報告相談を行い、適切な受診、看護が受けられる様にしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	直ぐに面会を行い状況を確認し、入院先のカンファレンスに参加して情報の交換及び、共有を行い、ご家族の承諾のもと、早期退院に向けての連携を図り、支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明を行い、重度化や終末期の説明は出来るだけ早い段階で医師の協力のもと行い、事業所にて出来る事と無理な事をご理解頂き、同じ方針でチームにて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、AEDを使っの救命救急の講習を受けている。急変時に備えてDr、Nsの指示を仰ぎ、連携を行い、定期的に確認を行っている。又、ご家族に緊急時の対応を確認している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち合いと、地域の方の協力のもと、年に2回(夜間想定・昼間想定)の避難訓練を実施している。避難訓練計画書を作成し、全職員に回覧し、ご利用者の避難の順番や避難の仕方、避難場所の周知を図っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの思いを汲み取り、職員間で接し方や声掛けを統一した物になる様に注意し、誇りやプライバシーを損なわない様、心掛けている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者が自然に自己決定出来る様な、意見を言い易い様な環境づくりに努めている。また、毎月の常会でも様々な希望や意見を言いやすい様に働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりのペースで自由に楽しく穏やかに過ごして頂ける様、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候に合った洋服を選んで頂いたり、その方がお好みの身嗜みやおしゃれを楽しんで頂ける様心掛けている。又、訪問理容では好きな髪型が言えるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や希望食等を献立に取り入れており、毎月の常会にも食べたい物をお一人お一人にお聞きしている。又、ご利用者が持っている能力を活かし、野菜の皮むき、つぎ分け、食器洗い、テーブル拭き等をして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や水分量を記入している。一人ひとりに合わせた食事形態や量を提供し、体調が優れない場合も形態を変えて、提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や外出後にはうがいをを行い、毎食後に口腔ケアを行っている。義歯は毎日、洗浄剤を使用することで清潔を保っている。又、ご自分で出来ない方にはその人に応じた方法で口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来るだけ布パンツで対応し、トイレ誘導を積極的に行っている。状態に応じて紙パンツやパッドを使用している。出来る事はご本人にやって頂き、出来ない部分を声掛けや一部介助を行っている。又、介助が必要な方には出来るだけ負担の少ない方法を職員全員で話し合い実行している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、下肢運動や廊下歩行、体操等で身体を動かし、10時のおやつでヨーグルトを召し上がることで便秘予防している。水分補給を1日5回以上取るよう努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はお一人おひとりの希望に合わせて対応しており、ゆっくり入浴したい方、シャワーのみがお好みの方等、個々に合わせた入浴を行っている。又、体調や気分は優れない場合は、清拭を行い、清潔保持をしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の落ち着ける場所で休んで頂いている。午睡後はリビングソファや居室ベッド等、過ごしたい場所で過ごしていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に処方された薬は変更がないかNsとも確認をし、記録等により共有している。新たに処方された薬を服用する場合、症状の変化を日子等に記入している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が出来る事をして頂き、今までの生活歴や力を活かして役割を持ち、誕生日や季節の行事に楽しんで参加して頂ける様工夫している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が好きなご利用者は職員と一緒にいたり、外出行事として年間を通して予定を立てて、色々な場所へ出掛けられるよう支援している。又、ご家族との外出支援も行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用様が欲しい物と希望される物があれば、職員と一緒に買い物に出掛けたり、探して購入して来たり、個々に応じて支援している。又、現金を持つことで安心されるご利用者はご家族と相談の上、ある程度のお金を持つ様にして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人に電話されたい時や年賀状やお手紙を出したい等のご希望があるご利用者に対して、それぞれにやりとりが出来るよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースにはご利用者がゆっくり過ごせるような空間づくりとして、季節の花や飾りを飾り付け、室温やテレビの音量にも配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。又、安全にも考慮し、踏み易い物は置かない様に配慮している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテレビ、壁に季節のうたの歌詞を貼ったり、新聞や雑誌等も置き、ご利用様が好きな時間にご自由に過ごせるよう工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の居室は自分の家だと思えるように写真等を飾ったり、使い慣れた机やダンス、テレビ等を持参して頂き、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で出来るだけ自立した生活が送れる様、下肢筋力の維持の為、廊下歩行や足の運動、リハビリ体操等を職員が声掛けや見守りながら支援している。又、認知症症状の悪化防止の為、パズルや塗り絵、公文学習等出来る事を楽しんで頂いている。		